夕焼け通信 1349号　2022.4.25
〒690-0823　島根県松江市西川津町4276-B402　gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/　編集 宮森健次

専業ババ奮闘記（その２） 95

木幡智恵美

整理（2）

三月に入って間もない日、寛大の集団登校の練習に娘が付いて行くため、留守番に玉湯に行った。七時二十分に娘と寛大は家を出、実歩と宗矢の面倒をみる。実歩が私の膝に乗ろうとすると、宗矢が「うーん」と言って実歩をどけようとし、対する実歩は「宗矢なんか嫌い」と言う。我が子もそうだったなと思いながら、二人の相手。一時間くらいして、一日の終わりのような顔をした寛大と娘が帰って来た。通学路は一山越すので一年生には結構辛いだろう。水分補給をしてから全員で娘の車に乗り込み、寛大と実歩を保育園で下ろし、託児所に宗矢を預け、娘は職場に、私は歩いて家に帰った。

その十日後には寛大の卒園式があり、実歩と宗矢を預かった。実歩はブロックで遊び、宗矢は歌の本で曲を聴いたり、チョロQが走るのを眺めたり。実歩がお絵描きすると、クーピーを出し入れする宗矢。目をこすり出したかと思うと、十一時過ぎに私の腕の中で眠った。しばらくして晴れの卒園式を終えた寛大、忠ちゃんと娘が寄り、皆で帰っていった。

畑も始動する時季で、ジャガイモだけはなんとか植えたけれども、春野菜の種を蒔くところを起こさねばならない。三月末に、四十九日の法要をすることにしているし、寛大の小学校入学、宗矢の保育園入所に際し、あれこれ頼まれている。そろそろ取り掛からねばと、三月半ばから義母の部屋と仏間、押し入れの整理を始めた。

実は数年前に、軽トラで何回かゴミ捨てに行っている。義母の動きが鈍くなるにつれ、部屋の中から荷物がはみ出、廊下へと広がり、さらには仏間へ、仏間の廊下まで、箱やら何やらがごちゃごちゃに置かれた状態になっていったのだ。せっかくの雪見障子も開くことさえできない。「ばあちゃん、片付けていいですか」と聞くと、「捨てられんだが。何とかしてくれる」と言われるので、デイサービスに行っている間に少しずつ物を整理していった。防虫効果があるのか、箱や袋の中には固形石鹸が一個ずつ入っている。整理し終わると何年も使えるほどの数が集まった。姪っ子がやって来た時、「えー、庭が見える」と、初めて見たかのように言った。その際、押し入れと、廊下の突き当り畳一畳分は手つかずだったので、まずはそこからだ。

がらがら橋日記

宮森健次

ハーブ１

何度か書いたように、業者にも入ってもらって実家の外回りはすっかりかたづけたのだが、何もない殺風景なのも味気ないので、裏庭の一角に小ぶりな花壇をこしらえた。土も石も十分な量があったので、リサイクルでもある。冬の間土作りをし、満を持してこの春を迎えた。

色とりどりの草花を植えてもよかったのだが、住む者はおらず、ブロック塀越しに隣家のおばあさんが見てくれるだけでは、花も今ひとつ気勢が上がるまいと思い、ハーブをいくつか植えることにした。というのも、スープを作るようになって、レシピにたびたび登場するハーブ類をいちいち購入しないですむのならどんなにいいだろうかと思うようになったからである。スーパーにありはするが、都度適量というわけにもいかず、安くもない。

それまでハーブには何の知識も興味もなかった。高尾小学校で子ども落語をやっていたとき、三年生の児童が高座名を「はあぶ」にしたいと言った。ぼくは、何だそれ、とポカンとなった。好奇心の強い子で、地図、漢字、メダカなどなど、常に何かしら夢中であり、しゃべるとそのことばかりになる子である。たまたま名付けの時に凝っていたのがハーブだった。どんなハーブをどのように育てているか、そのころ熱く語っていた気がするが、こちらは右から左で、彼にとっては話す甲斐のない担任であった。

たまたま名付けの直後「脱法ハーブ」が世間を大きく賑わすようになり、ハーブと言うだけで怪しげなイメージがついて回った。ぼくは、はあぶと相談して、「私は、三年生の若葉亭はあぶと申します。どうしてはあぶと言うかというと、ハーブを作るのが大好きだからです。…脱法ハーブじゃありませんよ。」というマクラにした。学校教育で扱うにはギリギリの線だったが、それがよかったのかどこでも大受けだった。これは、危険ドラッグなどに名称を変え、脱法ハーブという言葉が耳遠くなるまで使った。地元客などは、何度も耳にしたマクラなのだが、待ってましたと言わんばかりに繰り返し受けた。ハーブにもはあぶにも大変お世話になった。

はあぶのハーブ好きも長くは続かず、高学年になると「人間は飽きます」と開き直って、正直に名乗るなら「青葉亭（高学年の亭号）荒れ放題」などとうそぶき、やっぱり受けていた。今でははあぶも高校生になり、好奇心も順調に移ろっているだろう。

不思議というより、世の中そうしたものと思うのだが、ハーブについて何度聞いても馬の耳に念仏だったぼくが今は自分でそれを育てている。

30代フリーター　やあ、ジイさん。ロシアがウクライナを侵略した最大の理由は、危うくなったプーチン独裁体制のネジを締め直すために、戦争を仕掛けてナショナリズムを煽ることにある、とジイさん言っていたな。

年金生活者　いまその見方を修正する必要を感じている。ナショナリズムは近代的な主権国家に固有の現象であり、「帝国」の伝統を引きずるロシアは純然たる主権国家とは言いがたいからだ。

帝国は周辺の国を、独立した国家としてではなく、自国に服属する臣下のように扱う。そんな諸国家によって形成されるピラミッドが帝国の統治の骨組みとなる。どこか臣下の国がそこから抜ければ、ピラミッドはぐらつき、帝国の統治は危うくなる。ロシアにとってウクライナはピラミッドから抜けた国家に相当する。民主化を進め、対等な関係にある主権国家群の一員として振る舞い始めたからだ。「帝国」全体を脅かすそんなウクライナをロシアは許せなかった。

ロシアも「帝国」を卒業して純然たる主権国家に脱皮すれば、新しい発展の道を選ぶこともできたはずなのに、プーチンにとってそれは独裁者としての自らの地位を失うことを意味する。それは選択肢になかったと推察される。

30代　ロシアはウクライナを「兄弟国」と呼ぶ。

年金　相手は身内だから、武力行使を懲罰と考え、戦争ではなく「特別軍事作戦」と呼ぶ。主権国家どうしの戦争というとらえ方をしていないので、そのぶんナショナリズムも思ったほど盛り上がっていない。それでもプーチンの支持率が高いのは、冷戦に敗れた帝国を立て直し、国民生活を安定させたツァーリと国民にみなされているからだ。

30代　ロシア軍の残虐行為が相次いで報じられている。

年金　それは「帝国」であるがゆえの残虐さでもある。前近代の権力が「逆らう者を殺す権力」だったのに対し、近代の権力は人びとを生かして管理する「生権力」だというフーコーの考えに従うなら、「帝国」の権力は前者にあたる。「生権力」は戦争においても敵国の国民だからといってむやみに殺すのではなく、兵士であっても捕虜にして生かし、管理しようとする。

これに対し、ソ連軍の第2次世界大戦での残虐行為や、ロシア軍のチェチェンやシリアでの残虐行為はいずれも「逆らう者を殺す権力」の行使であり、先進諸国の「生権力」とは違う。

30代　ウクライナは台湾と比較されてもいる。

年金　ロシアにとってのウクライナ、中国にとっての台湾は、ともに「帝国」に服属すべき臣下に相当する地域として両「帝国」に扱われている。

中国が台湾に武力行使するときも当然ながら国家間の戦争ではなく、「帝国」に逆らって独立するのを抑え込むための治安的、懲罰的な作戦として遂行するだろう。

もし中国やロシアが「帝国」ではなく、近代的な主権国家を自認していたら、台湾もウクライナも自国の法をそっくり適用する領土として併合するか、独立した主権国家として認めるか、どちらかを選ぶことが論理的には推定できる。そのどちらでもない現在のような扱いは「帝国」に特有のやり方ということができる。

中国は香港とマカオを「一国二制度」とし、台湾も同じ方式で統一したいと考えている。国民をひとつの法の下に包摂される同質の存在とみなす近代的な主権国家の原理からは考えられないことだ。ロシアもウクライナを併合してその国民を同じ法の下に置くとまでは言わず、「中立化・非軍事化・非ナチ化」した服属国にしたがっている。

柄谷行人は「帝国の原理」を、征服はしても全面的な同化は強要しないことにあるとし、「国民国家が成員を強制的に同質化するのとは対照的」であり、「国民国家の拡張としての帝国主義が多民族に同質性を強要するのと対照的」と指摘している。（『帝国の構造』）。

中国の「一国二制度」も、ロシアのウクライナの扱い方も、主権国家の「同質性」とは対照的な帝国の「非同質性」に由来すると考えることができる。

30代　中国は「帝国」である限り、台湾の独立を認めることはないということだ。

年金　独立を武力で抑える選択肢を手離すこともない。中国自身が「帝国」を卒業して主権国家になる気配さえない現在、台湾有事を避ける方法としては、台湾の独立を回避し、中国を「帝国」のままにしておくことが最有力ということになり、アメリカもそれを望んでいるように見える。

しかし、両国とも「帝国」の伝統を引きずりながら、一方で、現在の世界を構成する主権国家のシステムの中で動かざるを得ず、「同質性を強要する」振る舞いも見せている。

「同質化」は「異質性の排除」によって成り立つ。主権国家が「帝国」よりはるかに厳密な国境線を引くのはそのためだ。中国が尖閣諸島の領有権を執拗に主張するのも、ロシアが北方領土の返還に応じないのも、そうした近代的な「同質性」のあらわれということができる。中国がウイグル自治区で住民を弾圧して進める「漢化」は「強制的に同質化する」事例のひとつといっていい。それらは帝国と主権国家の「悪いところ取り」をしているように映る。

ニュース日記　827

中村　礼治

「帝国」の原理